

令和3年10月31日

第1回講演会報告

鯉城・堀川と生活を考える会
広報 谷田耕三

コロナ禍の為、昨年度は中止や延期された活動が多くありました。

本年度の第1回講演会は10月20日ナディアパークの市民活動推進センターで行われ、会員30名が参加しました。

今回は我々の活動拠点の堀川が最終的に流れ込む名古屋港についての勉強会です。

講師は名古屋港管理組合 企画管理室環境担当 岡本主幹、風間主査、岡田技師、演題は「名古屋港の水質（環境にやさしい名古屋港）」です。

最初にスライドにより名古屋港の概要について説明がありました。

【貿易の現状について】 総取扱貨物量は19年連続日本一、貿易差引額23年連続日本一を誇っております。

【環境面について】

- ・名古屋港は伊勢湾の入り口が狭いため、水が入れ替わりにくい。
- ・沢山の河川が流れ込んでいる。（堀川、中川運河、庄内川、日光川、他）
このため、水質の汚染はこれに関連しているのではないかと。
- ・河川の汚れの原因は家庭からの排水と工場からの排水が多いと考えられる。
- ・名古屋港では水温の高くなる春～秋に赤潮、青潮が発生する。

【水をきれいに保つための施策として】

- ・中川運河水循環の促進…松重閘門より堀川へ13万m³/日放流
- ・中川運河でのばっ気を25か所で実施。

最後にあらかじめ管理組合で採取した名古屋港、中川運河、堀川の水を検体としてパックテストを行い、COD、pHの計測を行った。CODの計測では、中川運河の水が一番悪い値でした。名古屋港の実情について広範囲な話を聞くことができ、これからの活動の参考にしたいと考えます。

